

6. 乳歯の根管清掃効果について

○松田容士子、橋本 敏昭、西田 郁子、首藤 洋治
曾我富美男、堤 隆夫、木村 光孝
(九歯大・小児歯)

日常の小児歯科臨床において、乳歯の根管清掃は根管治療を成功させるためには重要な意義がある。その目的は根管内の感染した組織や象牙質削片を除去して根管壁面を整えることにある。とくに乳歯は根管清掃を行うにあたって歯根の圧平、彎曲が強く、根管壁も薄く、歯質も脆弱であることから、複雑な拡大操作によって穿孔を起こしたり、予後に与える影響が十分考えられる。従来の方法では、複雑な分岐根管や側枝を有する乳歯では、十分な清掃拡大を行っていくのが現状である。そこで、根管清掃に有効であると考えられている可聴域周波数を利用した装置と臨床的な予後を左右する根管の洗浄、とくに根尖部の清掃に効果的であるとされている新型規格洗浄針とを併用した。本法は確実にしかもスピーディで効率的な歯内療法を行うことができると考え本研究を行った。

研究材料は便宜抜去を行った健全乳前歯を用いた。日常の臨床の通法に従って、髓腔開拓、根管口の明示、クレンザーで抜髄した。第1群は、ルートキャナルシリンジによる10% NaOCl と 3% H₂O₂ の交互洗浄を行った。第2群は、可聴域振動装置 (ROOTY・吉田) を用いコンタクトシェイピング法群と円周ファイリング法群にわけて拡大清掃を行った後に、各々新型規格洗浄針 (藤沢薬品) を併用し10% NaOCl、3% H₂O₂ の交互洗浄を行った。以上の根管処置を行った乳歯を、ダイヤモンドバーで歯軸と直角方向の歯根中央部及び歯軸方向に唇舌的に分割線を入れ、ワイヤーニッパで4分割し観察試料とした。これら資料の根管壁面について、走査型電子顕微鏡的観察を行い、臨床的観察をあわせて若干の知見を得たので報告する。